

令和8年1月27日

答 申

白石市社会教育委員の会議

「地域の歴史・風土を反映したまちづくりの推進について」

1 はじめに

白石市は持続可能なまちづくりに向けた視点として第六次白石市総合計画の中に「地域力の向上」を挙げている。また、まちの魅力づくり戦略として、歴史遺産・伝統文化を体感できる環境の整備なども主な取り組みとしている。

さらに、令和7年度の施政方針の中に「歴史遺産・伝統文化の継承と活用、歴史遺産・伝統文化の継承と活用は、観光資源としての活用が期待でき、地域の個性や独自性、アイデンティティを示すものとして重要であり、地域の歴史遺産・伝統文化を掘り起こし、市民に対して魅力を発信する取り組みを進める」と明示している。

白石市の教育施策においてもふるさと教育の推進に向けて地域の文化財や史跡を学ぶ活動を通して文化や伝統に親しむ児童生徒を育てるなどの項目が載っている。

しかしながら、現状を見ると少子高齢化や人口の減少は依然として継続しており、市民が地域の資源に目を向けたり、伝統的な歴史・文化を継承したりすることも難しくなっている。

そのような中で私たちは、自分たちの地域の歴史・風土を改めて見直し、他の地域にはないよさや新たな魅力を再発見し、それを生かしたまちづくりが行えれば、白石市の活性化につながるのではないかと考え協議を進めてきた。

また、だれに対して何を伝えたいのか、そのような視点も入れながら地域の施設や文化財を見直し、さまざまな観点から地域の歴史・風土を生かしたまちづくりの在り方を探ってきた。

白石市の教育力の向上や観光の活性化のためには、歴史遺産・伝統文化の継承が大事であることは言うまでもない。私たちは地域の魅力を改めて探り、地域の活性化の一助となるようなヒントを提案すべくこれまでに検討を重ねてきた。

以下は、その協議内容をまとめたものである。

2 地域の歴史・風土を反映したまちづくりの推進について課題と解決の手立て

地域の歴史・風土を反映したまちとはどのようなまちであるか、また、それを推進していくうえでの課題や解決に結び付くような手立てにはどのようなことが考えられるかについて目指すまちをイメージして協議を重ねてきた。

社会教育委員の会議開催日と検討内容

- ① 令和6年4月23日
教育委員会から社会教育委員の会議に対して諮問
令和5年度事業報告 令和6年度事業計画案
「地域の歴史・風土を反映したまち」について具体的な姿について意見交換とイメージの共有
- ② 令和6年7月23日
地域の歴史・風土についての共通理解
歴史や風土を反映したまちについて意見交換
- ③ 令和6年10月22日
市内の指定文化財の現状把握
片倉家御廟所、滝の観音堂、少納言喜多の墓など
- ④ 令和7年1月28日
現状把握を終えての各委員の意見・感想の集約
自然や歴史的な施設の魅力の確認
10月の現状把握から課題と思われる事項の洗い出し
- ⑤ 令和7年4月22日
地域の歴史・風土を反映する上での課題の集約
課題解決の手立ての検討
- ⑥ 令和7年7月22日
課題への手立てについて検討・まとめ
- ⑦ 令和7年10月28日
会議内容のまとめ、答申案の検討
- ⑧ 令和8年1月27日
答申書の提出

3 社会教育委員が考える「地域の歴史・風土」について

歴史・・・白石における今に至るまでの物事の移り変わり、発展する過程

- 地域（白石市内）に残る歴史的な記録や先人が残した業績や遺産など
- 過去の文化活動によって作り出されたもの（学問・芸術・宗教など）、文化財
- 古くからある名所（神社や寺・石碑）
- 当地にしかない建造物や施設（白石城や歴史探訪ミュージアムなど）
- 地域に残る伝統的な踊り、神楽などの芸能や特徴のある人材

風土・・・白石の土地の気候・地勢などの自然環境、住民の思考・行動様式

- 白石にしか見られない白石川や蔵王の自然（材木岩・温泉など）
- 自然の中にみられる象徴的な植物・動物（梅花藻・小原のコツブガヤなど）
- 伝統的な祭りや行事
- 白石に残ることば（方言）やならわし、民話や言い伝え
- 地域・風土を生かした産業（うーめん、米、水など）

反映する（・・・あることが他に影響して現れること）について

<委員が考える「歴史や風土を反映したまち」のイメージ>

- 史跡や名所の案内板や表示が整っている
- 史跡めぐりのための交通手段（シャトルバス等）が整っている（土日）
- ふるさと学習が進められ、児童生徒が地域のことを知っている（話せる）
- 歴史や風土に興味をもって白石を訪問した人が名所を選択できる
- 歴史や風土を感じさせる工夫が町中に施されている
- 観光客の滞在時間を満たせるインフラや店舗が整備されている
- 白石の歴史や風土についての情報発信が積極的に行われている

4 歴史や風土を生かすうえで参考と思われる事項

① 文化財視察から見たよさや課題（含現状把握からの感想）

<プラス面>

- 片倉家の墓所等、たくさんの文化財と歴史の深さや魅力
- 文化財に関して丁寧で分かりやすい説明ができる人材

- 由来や背景を知ることによって新たな感じ方ができる文化財
- 現在の生活とのつながりがわかる文化財
- 現地で見る風景の空気感の中に歴史の重み

<マイナス面>

- 文化財や白石城・歴史探訪ミュージアムを多くの方に見てもらおうための働きかけや工夫
- 文化財の保護や文化財の利活用の工夫
- 高齢者や若者にも理解しやすい掲示板（説明板）の設置、トイレ、歩道の修理など環境整備
- 文化財やその関連施設へのアクセスのしやすさと交通手段
- 文化財収蔵室に収められている文化財や古道具等の展示

② 委員が日ごろ感じている課題

- 地域住民の歴史や風土の魅力についての興味関心・理解・認知度が低い
- 学校教育や社会教育でのふるさと学習の機会の減少
- 地域コミュニティの維持
- 少子高齢化や人口減少による伝統・文化の担い手の不足
- 魅力ある歴史・風土を観光資源に結び付ける工夫
- SNS等を活用した情報発信の工夫
- 地域内外での交通の利便性
- 歴史的建造物や自然景観の保存

5 主な課題への手立て

(1) 自然や文化財の保存や環境の整備

- ① 案内板の工夫、句碑の表示の仕方
 - ⇒ QRコードを付ける、俳句の読み方や解説の文字の大きさや子どもにもわかる解説や読み仮名の付記
- ② 自然環境・文化財・施設の定期的な清掃と設備の充実
 - ⇒ 地域と連携した清掃、新しく清潔なトイレの設置
 - ※特に準絶滅危惧種梅花藻の存続を見据えた定期的な沢端川清掃
梅花藻が見られる時期の「梅花藻期間」等の設定
- ③ 指定文化財登録の拡充

- ⇒ 新たな指定文化財の吟味と指定に向けてのPRの仕方
※拝観料をとれる施設を目指した計画的な改善

④ 博物館の早期開設にむけた準備

- ⇒ 博物館ができるまでの公開されていない文化財の展示方法
歴史探訪ミュージアムでのテーマ展示や特別展示など

(2) 市民、特に幼児・児童・生徒への興味関心の喚起と学習の機会

① 歴史探訪ミュージアムの視聴機会の確保

- ⇒ 学年を指定した歴史探訪ミュージアムへ出かけての視聴（主に中学校）

※学校への配信なども考えられるが3Dで視聴させることの意味

② 伝統行事への招待・企画への参加

- ⇒ 春・夏祭りや鬼小十郎まつりへの働きかけ

※特に移住者の参加に特典を加えるなどの工夫

流しうーめんの再興や祭りに関する学校への出前授業

③ ふるさと教育の充実

- ⇒ 郷土の文化財の調査や探求活動の実施と調査内容の交流

※隣接学校間（小中学校）での探求の成果発表会の設定

- ⇒ 教員を対象にした文化財等に関する研修機会の確保

副読本の活用についての研修会の実施

P T A活動などを通して親子で歴史や文化財を学ぶ機会の設定

④ 自然や文化財に関して造詣が深い人材の活用

- ⇒ 市文化財係や郷土史家、歴史愛好家等の学校教育への協力要請

※教員研修や児童生徒のふるさと学習の講師としての協力

⑤ 白石史跡巡りツアーの実施

- ⇒ 対象を一般市民、親子、年配者などに向けての実施

外国からの技能実習生対象の実施 ※無料や特典をつけて

(3) 歴史や風土に関する情報発信

① HPやSNSによる定期的な情報発信

- ⇒ 梅花藻を調査・研究している白石高校とコラボした情報の発信

※準絶滅危惧種である梅花藻の周知や保存を目指したのぼりや表示の作成（費用の掛かるのぼり等の作成には企業や団体に協力を呼び掛けて費用面の援助も考える）

⇒ 中学生や高校生が作成した白石（史跡や産業など）の資料をHPや公共施設で紹介

※白石の生徒がふるさとを知る活動に取り組んでいることを市民や観光客に幅広く知らせる

⇒ CM大賞（東日本放送）に出品した映像のHPへのアップ

② 観光パンフレットの工夫

⇒ 歴史、自然等、目的別のパンフレットの作成・配付

※既存の資料からピックアップして現在のニーズや状況に合うものに改善

⇒ 観光客への物品サービスとその物品への歴史文化の情報添付

例：梅花藻の絵葉書・シール、白石城や梅花藻のキットやバッチ
武家屋敷のしおりなど

※予算については企業や団体からの協力やふるさと納税、クラウドファンディングなどの試みも視野に入れる

③ 観光客や移住者に向けた情報発信

⇒ 観光案内所やショップでのPR 既存のメール等の活用

各施設や史跡へのロードマップや地場製品の販売所や飲食店の紹介

※道の駅開設に備えた案内板の工夫と設置

（４）市民や観光客に名所や文化財・イベントに足を運んでもらうための工夫

① 文化財や施設をつなぐ交通手段

⇒ 土日や連休を利用した市民バスの活用、無料レンタサイクルの実施
イベントの際の交通手段の工夫（駅や駐車場と会場間の送迎）

② 観光客やイベント参加者に特典を与える工夫

⇒ 抽選による地場製品や伝統工芸、温泉招待などの提供

※地域の企業や組合の協賛を得る努力

③ 白石城、寺社などの施設をメイン会場にしたイベントの工夫

⇒ 絵画・写真展、中学・高校生のコンサート、肝試し、フリーマーケット

ット

④ 白石駅や白石蔵王駅とコラボしたイベント

⇒ 撮影会、地場産品の実演販売、中学・高校の吹奏楽コンサートなど

6 おわりに

私たち社会教育委員は歴史・風土を反映したまちづくりの推進にむけて、実際のまちのイメージを共有しつつ、自然や文化財等の現状を把握することがまず大事ではないかと考え、令和6年10月に歴史的な施設や指定文化財見学を行った。

その結果、白石市の魅力ある自然や文化財について、重要な価値のあることを再確認できた。

しかし、時に重宝され整備された文化財等ではあるが、その時期以降、長期間にわたり整備されず、展示もそのままになっていると思われる事象もあり、そのような状況では、利用の拡大といったことについても望み得ないと感じた。

そこで、自分たちの目を見た現状から地域の歴史・風土を生かしたまちづくりにどのようなアプローチができるか課題を挙げ、その解決にむけて、以下の4つの項目から具体的な対策について検討を重ねてきた。

①自然や文化財の保存や環境の整備

②特に幼児・児童・生徒への興味関心の喚起と学習の機会

③歴史や風土に関する情報発信

④市民や観光客に名所や文化財・イベントに足を運んでもらうための工夫

白石の自然事象や歴史的な施設は学校教育・社会教育施設として様々な活用の可能性があるが、その使命や目的について、適切なタイミング・実情に即した形で再評価することが重要である。

また、これらの歴史的な施設に対する社会的な要請は、様々な環境の変化により変遷している。そうした要請を的確にとらえて、将来の事業に生かしていくことが必要であると考えます。私たちの提案がその事業の一助になれば幸いです。

白石の貴重な歴史や風土がさらに生かされ、教育・文化施設、そして観光資源として、さらに価値ある遺産になっていくことを願っている。